

水稲の作付け、復田対策が必要では

町の農業には有益、推進を計る

質問 今後、産地補助が

少なくなることが危惧される中、復田対策をして行くことが必要では。

本年度の実績では、583

ヘクタール配分されたが、

151ヘクタールが未作付け

となり、このうち140ヘク

タールを産地間調整とし

て他の市町村に融通しま

した。

答弁 水稲の作付けにつ

いては、国の需給調整に

よって県を通じて配分さ

れています。

この3年間は一定数量

が町に配分されてきたが、

来年度から各市町村の作

付け実績に見合った配分

となり、3年間で調整さ

れます。

○その他の質問事項

・文化財の保護と活用につ

いて

地元住民は早期接続を切望しているが

県の支援が明確になれば、着工する

質問

地元住民が切望し、企業誘致促進にも不可欠な、下水道接続工事の進捗よく状況は。

答弁

費用負担について

は、県も認識しており、

検討中ですが、現時点で

は結論は出ていません。

早期接続についての重

要性については、共通の

認識を持っています。

測量、設計は3月中旬

に完了する予定です。県

の支援が明確になれば、

着工する準備は整ってい

ます。

○その他の質問事項

・区・集落組合への振興

補助金

・教育行政

について



植松米作 議員



県営 富士見高原産業団地



中山 孝 議員